

## 序

私達現場教師の新しい教育実践も十年の経験を経て、混乱期をようやくすぎ、一步一步堅実な前進をするようになりましたことは本当に喜ばしいことと思います。私達は「何を目標に、どんな内容を、どのような方法で」児童を指導するのかというような教育実践の基本的な事柄さえ明確に意識されなかつたと思われる新教育実践の初期の頃を考えればひとしお感慨深いものがあります。けれども私達は無論誰でも教育実践が現在のままで十分だなどとは考えていないと思います。私達は道徳教育の問題を始めとして新しい教育上の問題が山積されておりますし、又もつと身近な、こまかなしかも最も重要な「日常実践の諸問題」が解決できないで苦しい努力を続けています。これこそが教育実践者の真実の姿だと思ひます。

ともかく私達はいろいろの問題の解決をせまられているのですが、そのためにはどうしても子供達の生活の事実を詳らかにしながら、その過程で一つ一つの事実を注意深く把えながら問題にアプローチ（接近する）することが大切だと考えられ、そのため教育実践者の間に数多くの優秀な実践記録が生れ、それを基盤にして教育が遅々としてではあるがすばらしい歩みを続けて来たということは周知のことであると思ひます。

けれども私達がここで考えてみたいのは、今まで数多くの実践記録が生れましたが、それについて何か疑問が生れなかつたでしょうか？反省の時期がそろそろやつて来たのではないのでしょうか？ということです。

例えばその第一点は今までの普通の現場実践には、学問的に優秀だといわれるものであればあるほど私達現場の実践者にとって「誰にもできる可能性」ということが小さくなつていくということがなかつたでしょうか？無着先生、相川先生などの実践記録はまさに日本教育に新風を吹きこんだということは日本の教育にとって本当に喜ばしいことだつたに違ひはありませんが、しかし「無着先生だからできたのだ」「相川先生だからできたのだ」ということを多くの実践者は考えなかつたでしょうか？私達は一人の無着先生、一人の相川先生であつてはならないと思ひます。私達の教育を前進させるためにはどうしても千人の無着先生、万人の相川先生が生れる必要があると思ひます。

第二点は現場の日常生活の小さな、しかも重要な問題を私達は見落してゐなかつたでしょうか？今までの実践記録の大方の傾向は何か「新しい試み」に対する失敗（或いは成功）した事例の記録というのが多いように感じましたが私達はもつと身近に感じている問題に注意する必要があるのではないかと思ひます。例えば低学年の教師は教師の発問がなかなか子供の心をつかめないで苦心しているとか、児童の個々の記憶相互間の連結力が弱く、それだけに連想が広範囲にちらばるために学習の集中化が非常にむづかしいというようなこと等。このようなことは誰でも心のかたすみにしこづつていることと思ひます。こういうものこそ私達はじっくり考えてみる必要のあることだと思ひます。

私達は今までの実践記録について以上のような考えをもつてはいるのですが、それを改めるのにはどうしても各個人が別々に問題を考へていたのでは、どんなに小さい問題でも解決しにくいのではないかと？皆で共通の次元に立つて実践を進めていく必要があるのではないかと？考え、その共通の次元に立つための話し合い（意志の流通）の場を持たねばならないと考へたのです。

私達はこのような立場に立つて、話し合いの場としての実践記録を募集することになりました。これは実践記録集にまとめて皆さんに読んでいただきたいと思ひますが、決して今までのような名人芸的（ある特定の人だけしか実践できない）研究発表を考へてはいるのではなく、この記録集を通じて前述のように多くの人達が共通の次元にたち、一人で解決出来ないことをみんなの協力で解決できたらという希望をもつており、実践にもとずいたものなら随筆的なものでもよいと考へておりますので、「私はこういう問題につき、こうしてみた。その結果こうなつた」という実践の記録を数多くお寄せ下さつて私達の教育の前進の一翼を担つていただければ幸いと存じます。

以上の教育実践記録募集要項の趣旨に賛同して応募下さいました作品二十三点いづれも貴重なる体験に基づいた記録であり諸先生の熱意溢るる努力にむねうたれ深く敬意を表すると共に感謝申しあげる次第であります。紙面の都合によりここに第一集として七編を収録発行するに際して本書が諸先生方の自己研修に或は校内現職教育の資料として活用されることを願ひ序文といたします。

昭和三十三年三月三十一日